

中国において留学を希望する高校生の意識

○盧 泳詩¹ 林 如玉² 倉元 直樹²

¹ 東北大学教育学研究科, ² 東北大学高度教養教育・学生支援機構

1. 問題と目的

21 世紀に入り、中国の国民所得が上昇し、留学政策が緩和されたため、留学ブームが起きている。留学ブームとは、ますます多くの人々が、進学、勉強、仕事、生活のために海外へ行くことを選択する現象である。世界最大の留学生供給国として、2020 年までに中国人留学生の数は 108 万 8000 人に達した。(中国学生出国留学傾向報告, 2022) 留学意向を持つ人々に対する調査によれば、調査協力者のうち、55%の方が大学卒業後に留学することを選んだが、近年、早期に留学意向を持っている人の数は増加傾向にある(中国留学白書, 2023)。早期というのは、大学卒業後に留学する多数派に比べ、より早い段階で留学意向を確定したことを指す。本研究では、高校段階に注目する。高校の段階で留学の意思を持っている高校生の留学決定要因について明らかにしたい。

松原・薛・姜(2008)は中国の大学生を対象に、彼らが留学を決定する際に影響を与える要因について研究を行った。大学生が留学を決定する際の要因には、主に個人的要因と家庭的要因が挙げられる。個人的要因は、特にキャリアに関する影響が大きいとされている。しかし、この研究では大学生のみを対象としており、大学生以前の段階にある高校生が留学を決定する際にはどのような要因が働くのかについては検討されていない。小林(2022)は、日本人の高校生を対象に、長期留学志向の形成要因について検討した。生徒の留学志向の形成要因には、親の年収や学歴が影響を与えていることが明らかになった。また、長期留学志向が高いグループは、学力中位層に集中していることも示されている。しかしながら、この研究は日本の高校生を対象にしたものであり、中国の高校生において留学志向がどのように形成されるのかについては依然として不明である。David(1981)は、高校生の大学選択モデルと、大学選択に影響を与える要因について研究を行った。生徒が大学を選択する際に高校の成績や自己成長、重要な人物からの影響を受けることが確認された。本研究では、留学を選択する際にも同様の

要因が影響を及ぼすのか、明らかにしたい。

上記の先行研究を踏まえて、本研究では、高校3年間の留学行動や意識決定に焦点を当て、家庭の経済状況、教育環境、個人的な興味、キャリアプランなど、様々な要因が留学意思決定にどのように影響するかを調べる。高校生の留学決定要因を明らかにすることは、彼らの進路選択を支援するための参考資料にもなると考えられる。

本研究は中国の高校先生、留学機関の先生、高校卒業後に海外へ留学した中国人留学生を対象にインタビューを行い、留学の意思決定に影響を与える要因を明らかにすることを目的としている。

2. 方法

2.1 調査対象者

本研究を開始するにあたり、最初に中国の高校先生、高校生、および高校卒業後に留学している留学生に、留学を決定するに際しての話をうかがった。それをヒントに、本研究の研究計画を立てた。

本調査の協力者は6名を予定しており、現在3名に対するインタビューが完了した。正式調査の協力者の基本情報を表1に示す。

表1 本調査協力者の基本情報

協力者	基本情報
1	留学機関の教員
2	韓国に留学している学生
3	日本に留学していた社会人

2.2 調査方法

予備調査の4名の回答と、David(1981)の大学選択における影響要因モデルを参考にして、高校生が留学を決定する際の意識に関する仮説モデルを提案した。

本調査では、30分ぐらいの半構造インタビューを行った。質問項目は、予備調査で得られた仮説モデル、【きっかけ】－【行動】－【最終決定】に沿って構成された。

2.3 調査内容

質問内容の例は以下のとおりである。

きっかけ：あなたが留学を考えるようになったきっかけは何ですか？

行動：留学先の国を選ぶ際に考慮した要素は何ですか？主にどのような方法で情報を収集しましたか？

最終決定：最終的な決断に影響を与えた要素は何ですか？

そのほかにも、協力者本人の留学に関する意識、意欲や留学後の満足度などについても尋ねた。

2.4 倫理審査

本調査は東北大学教育学研究科で研究倫理審査の承認を得た。

3. 結果

3.1 調査結果

最初の仮説モデルは、大きく【きっかけ】、【行動】、および【最終決定】の3つの大カテゴリで構成されている。本調査を通じて、高校生が留学を決定する過程において、親の影響が大きいことが確認できた。また、高校生と親のモデルが異なることも判明したため、これからは、モデルを生徒側と保護者側の2つに分けて結果を説明する。

3.2 生徒側

生徒側のモデルは、表2に示した。大カテゴリは【きっかけ】【行動】および【最終決定】である。以下では、大カテゴリを【 】、中カテゴリを『 』、小カテゴリを「 」で表す。

高校卒業後に海外留学を希望する高校生の留学を考え始める【きっかけ】としては、『社会的背景』と『個人的な原因』の2つの中カテゴリが挙げられる。『社会的背景』としてよく言われるのは、「高考（大学入試）の過度な競争」である。協力者1によると、生徒の大多数は、高校段階の学業成績が理想に達していないため、将来の学士学位取得を目指し、同時に高考の激しい競争を回避するために留学を考え始めたと言う。これは、『個人的な理由』における「学力不足と学士学位取得の需要の衝突」にも対応している。また、現行の「中考（高校入学受験）の分流政策」も、高校生が留学を考えるきっかけとなっている。中考の分流

政策とは、普通高校と職業高校の就学率をほぼ同じにするという政策である。（中華人民共和国教育部, 2021）職業高校の進学ルートが、技能高考を経て普通大学に進学する可能性もある。技能高考とは、大学が職業高校の生徒を対象に、技能操作試験を主とし、一般試験を補助として利用する入学者選抜試験である。しかし、普通高校の生徒に比べて、進学できる大学や専門は限られている。中国の大多数の家庭が、将来、学士学位を取得することを希望する一方で、中考の分流政策により、約半数の生徒が普通高校に進学できず、職業高校に進学することになる。そのため、中考でなんとか高校に合格した一部の生徒は、この成績では国内の大学に合格できないか、たとえ合格しても良い大学に入れないと考え、高校卒業後に留学を選択する可能性がある。これも高校生が高校卒業後に海外留学を選ぶきっかけとなっている。

さらに、『個人的な原因』として、学力不足のため、国内での高考受けて普通の大学に進学するよりも、海外留学のほうは「より良い教育」が受けられることが魅力的であり、留学を考えるきっかけとなっている。また、協力者の回答によれば、高校生は将来のキャリアプランを理由にして留学を選ぶケースもあるが、深く考えているわけではなく、むしろ外国や留学生活に対する「好奇心」から留学を選ぶ傾向がある。

【行動】については、『情報収集』と『影響要因』の2つの中カテゴリがある。『情報収集』は主に「SNS・インターネット」、「先生と相談」、「友人と相談」の3つの手段がある。『影響要因』としては、「国に興味」に加えて、留学先の国の「入試制度（出願手続きの複雑さなど）公募制・受験制」、「入学の難しさ」、「中国との距離」、留学準備にかかる「時間的コスト」と留学生活開始後の「経済的コスト」が考慮されている。ここでの公募制は、受験制と対比して用いられている。公募制は、大学の出願条件をクリアし、出身高等学校長の推薦があれば受験できる選抜である。受験制とは、日本の大学院入試のように筆記試験と面接を受ける制度である。また、協力者1の回答によれば、一部の高校生は「生活面」の困難さについても考慮し、海外で自分自身を十分に世話できないことも心配している。最後の影響要因は「保護者」である。インタビューの結果から、高校生の留学決定において主導的な役割を果たしているのは保護者であり、保護者が最初に

留学の意図を持っていることが多く、それが最終の留学決定につながっている。【最終決定】については、『留学』、『留学を後回し』、『留学しない』の3つの結果に分かれている。

表2 生徒側仮説モデル

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
きっかけ	社会背景	高校の過酷な競争
		中考の分流政策
	個人的な原因	学力不足と学士学位の需要の衝突
		より良い教育を受けたい需要
		キャリアプラン
		好奇心
行動	情報収集	SNS・インタネット
		先生と相談
		友達と相談
	影響要因	国に興味
		入試制度
		入学の難しさ
		中国との距離
		時間的コスト
		経済的コスト
		生活面
		保護者
最終決定	留学	
	留学を後回し	
	留学しない	

3.3 保護者側

保護者側の仮説モデルを表3に示す。保護者側のモデルにおいても、大カテゴリーと中カテゴリーは生徒側と同様である。保護者が子どもを留学させることを決定する過程も、【きっかけ】、【行動】、【最終決定】の3つがある。

【きっかけ】には、『社会的背景』と『個人的な原因』という2つの中カテゴリーが含まれ、生徒側のモデルと同じである。主な違いは、【行動】の部分に現れた。保護者は情報収集の際に「大学主催の説明会」に参加する行動が見られた。例えば、海外の大学が中国に設

置した事務所が主催する大学説明会などがこれに該当する。また、「留学フェア」などを通じて情報を収集することもある。さらに、保護者も生徒と同様に、「先生に相談する」ことがある。

表3 保護者側仮説モデル

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
きっかけ	社会背景	高校の過酷な競争
		中考の分流政策
	個人的な原因	子どもの学力不足と学士学位の需要の衝突
		より良い教育を受けさせたい需要
行動	情報収集	大学主催の説明会
		先生と相談
		留学フェア
	影響要因	安全性
		有益な学びの機会となるかどうか
		学士学位の価値
		留学の費用
		子どもの意思
最終決定	留学	
	留学を後回し	
	留学しない	

『影響要因』としては、保護者は「安全性」などの問題をより重視する傾向が見られた。また、留学が子どもにとって本当に「有益な学びの機会となるかどうか」も考慮される。具体的には留学は何かを学べるのか、何かを教えてくれるのかについて関心がある。さらに、「学位証明の価値」も保護者の懸念されるポイントとしてある。学位証明の価値については、具体的には中国教育部によって認定されている大学であるかどうかを指す。また、協力者1が自身の経験に基づいてまとめた情報によると、協力者1が所属している留学機構において、相談に来る多くの生徒が学力不足の問題を抱えているため、国内で通常の高校に参加しても大学に合格できない可能性がある。そのため、大学に合格できればよいという目的から、多くの保護者は大学を検討する際に、子供が世界ランキング上位の大

学に進学することをあまり求めない。その結果、世界ランキング上位の大学への関心は高くない。中国教育部によって認定される大学であれば、それで十分なのである。最後に、「留学の費用」と「子どもの意思」も重要な要素となっている。【最終決定】については、生徒側のモデルと同様である。

4. 考察

まず、インタビューにおいて、高校生が留学を決定する過程で、留学という意図を本人よりも親が先に持っていることが目立った。さらに、親の意見やアドバイスは高校生の留学決定に大きな影響を与えていることも確認できた。高校生が留学を決定する過程において、家族の影響が大きいことが明らかになった。この点に関して、教員が生徒と相談する際には、家庭との連携が非常に重要であることを留意する必要があると考えられる。

次に、生徒と保護者の意思決定過程における相違点に着目すると、生徒は好奇心から留学への動機が強い一方で、保護者は安全性や学位の価値など、より具体的かつ実用的な要因を重視する傾向が見られた。これらの差異を理解することは、より効果的な進路指導やカウンセリング方法を策定するために役立つであろう。

最後に、留学を最終的に決定する過程では、家庭環境、個人の学力、将来のキャリアプラン、経済的な問題など、多くの要因が影響を与えることが確認できた。こうした複雑性を踏まえ、違う意思決定段階の高校生に対して個別に適したアドバイスとサポートを提供することが有効な手段として考えられる。

本研究の課題として、仮説モデルとして【きっかけ】【行動】【最終決定】の3つのカテゴリーが提示されているが、これらのカテゴリーがどの程度包括的であるか、他の要因が見落とされていないか、検討が必要である。特に【最終決定】に至るまでの複雑な心理のプロセスや外的要因の影響について、さらなる調査が求められる。

本研究はインタビュー法を用いて実施したが、将来的には定性的なデータから、定量的なデータ収集を可能にすることで、より包括的な知見が導き出せるであろう。本調査で得られた知見を予備調査と位置づけ、質問紙法などを実施して、広範なデータを収集するこ

とが期待される。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP21H04409, JP24K16703 の助成を受けたものです。

引用文献

- Chapman, D. W. (1981). A Model of Student College Choice. *The Journal of Higher Education*, 52(5), 490–505. <https://doi.org/10.1080/00221546.1981.11778120>
- 中国共産党新聞網 (2022). 民進中央：关于尽快調整完善高中段階“普职分流政策”的提案, <http://cpc.people.com.cn/n1/2022/0228/c442045-32361825.html>
- 中華人民共和國教育部 (2023). 对十三届全国人大四次会议第 9303 号建議的答复 http://www.moe.gov.cn/jyb_xxgk/xxgk_jyta/jyta_jijiaosi/202301/t20230117_1039575.html
- 中国留学白皮書中学版 (2023). www.199it.com/archives/1606501.html.
- 中国留学生出国留傾向調査報告 (2022). https://www.eol.cn/e_html/report/osr2022/content.shtml.
- 小林, 元気 (2020). 大学生の留学志向の形成に関する教育社会学的研究——社会的要因と職業達成に着目して——, <https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000039-I12219635>
- 松原敏浩 (2008). 大学生の留学意思決定に及ぼす要因の分析(1) 中国山東省の国立大学学生の場合を事例として. *愛知学院大学論叢経営学研究* 17(4), 237-248. <https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I9643821>